

## 1. 柱の目標値と結果

健康だと感じている人の割合

平成29年度実績値	令和3年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度目標値
75.4%	78.3%	76.0%	85.0%

## 2. 施策の主な成果（取り組んできたこと）

### ○フレイル予防事業

地域包括支援課，地域包括支援センター等の関係機関が連携しながら，フレイル（健康な状態と要介護状態の間の状態）を予防する活動の推進及び支援を行います。

通いの場や地域包括支援センターの講座などでフレイルチェックを行い，フレイルへの気づきを促し，フレイル予防に取り組むきっかけとなるよう啓発を実施しています。また地域の活動団体にフレイル予防に関する専門職を講師として派遣する「フレイル予防・健康づくり出前講座」を実施し，フレイル予防に関する知識の普及を図っています。

### ○社会参加イベント開催事業

ラコルタ柏を拠点として，社会参加に少し不安のあるかたや交流を持ちたいかたが，年齢や属性，障害の有無にとらわれず，自然に交流できる創作活動やイベントを行っています。年々利用者は増加しており，社会参加のきっかけとなる，地域の居場所の一つとして活用されています。

## 3. 市民・学生アンケート調査，市民ワークショップの分析

### <市民アンケート>

- 「健康だと感じている人」の割合は，計画策定時から横ばいで，中間評価の時点よりも減少傾向にある。要因として，本計画期間中に，新型コロナウイルスの感染拡大を受けて，社会活動の低下やつながりが希薄化したことで，**不安や悩みなどのストレスが増え，心の不調を感じる人の割合が増加**していることも影響していると考えられる。
- 柏市の健康・福祉の取り組みについて，「地域活動（イベント等）の場」は「充実している」「どちらかといえば充実している」が3割程度と，比較的高くなっているが，ほとんどの取組については「充実していない」と「わからない」で半数以上を占めている。市民の健康度を高めるためにも，まずは**市の取組内容の周知を図るとともに，市民ニーズなど把握しながら，必要な施策を充実・強化していく必要がある。**

### <市民ワークショップ>

- 「生涯学習や健康増進を行うための施設が充実していると思う（図書館，学習施設，スポーツ施設など）」という設問については4グループ中3グループがYESと回答しており，施設に対する評価は高い状況である。
- 「病気や高齢になっても暮らしやすい体制（医療・福祉・生活支援）が整っていると思う」という設問については，4グループ中2グループがYESであった。医療・福祉・生活支援体制には，周知を含め改善の余地があることがわかった。

### 第4期の総括と第5期計画で意識する課題

- 地域活動の充実度について，地域活動に対する市民の評価は比較的高いものの，まだ半数以上が取組内容を「充実していない」または「わからない」と感じている。市民の健康度を高めるために，まずは**市の取組内容の周知を図り，市民ニーズを把握しながら必要な施策を充実・強化することが重要。**
- 生涯学習や健康増進のための施設に対する評価は高い一方，医療・福祉・生活支援体制については改善の余地がある。医療や福祉，生活支援体制について，周知を含めた改善を行い，市民がより安心して暮らせる環境を整備する必要がある。
- 「だれもが健康でいきいきと暮せる地域づくり」を今後より推進していくには，**市民ひとり一人が心身の健康増進に向けた取組が図れるような支援施策の充実**を図ることが大切。また，各種施策の推進においては，「受け手」「支え手」といった役割を固定することなく，可能な取組内容に関しては，**住民参加型で共に地域課題の解決につながるような，共創型の活動の充実**を図っていく必要もある。